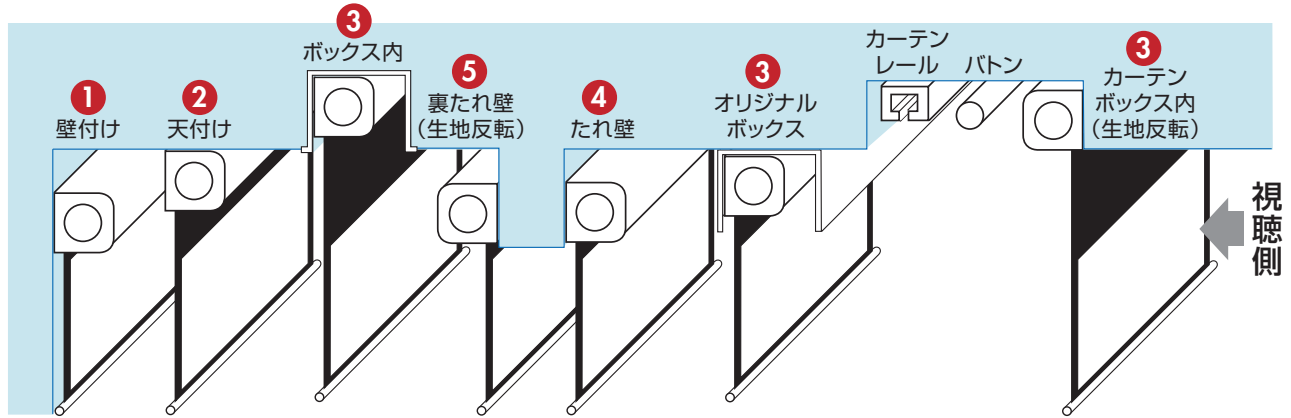


スクリーン選定のポイント -6-

スクリーンの取付方法

スクリーンの取付には、大きく分けて次の5つの場合があります。①壁付け、②天付け、③ボックス内、④たれ壁、⑤裏たれ壁
また、それぞれ取付面の状況により、さまざまな工夫が必要です。いずれにしる取付に際しては十分な強度を確保する必要があります。

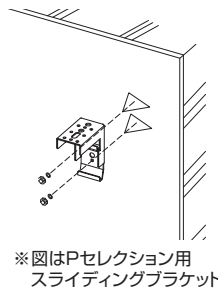
取付イメージ図



手動スクリーンは特にハンドルを引く時に、瞬間的な強い力が加わることがあります。取り付け場所の強度には特にご注意ください。

①壁付け

- ・パーティション、LGSの場合
 1. 壁面表面もしくは内部に長期に渡り強度を保てる補強材があることを確認します。
 2. アルミ天板 (A-T) をLGSまたはパーティション間柱にタッピングねじで複数箇所固定し、スライディング／サイドブラケット、いずれの場合にもボルトを左右合計4本を使いアルミ天板 (A-T) に固定します。
- ・コンクリート壁の場合
 1. 壁面にアンカーを打ち、設置した全ネジボルトにスライディング／サイドブラケット、いずれかを左右合計4本のボルトを使い固定します。



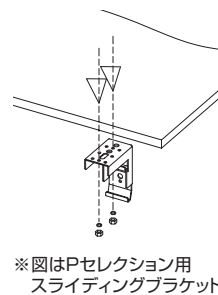
エクステンションポールを使って取り付ける場合

スクリーンを取り付ける場所の工事ができない場合、あるいは天井、壁などに傷をつけたくない場合にはエクステンションポール (▶P.74) をご利用ください。



②天付け

- ・在来天井の場合
 1. 天井内部に長期に渡り強度を保てる補強材があることを確認します。
 2. 補強材もしくは野縁材などにアルミ天板 (A-T) を固定し、スライディング／サイドブラケット、いずれの場合にも、ボルトを左右合計4本を使いアルミ天板 (A-T) に固定します。
- ・コンクリートスラブの場合
 1. コンクリートスラブにアンカーを打ち、設置した全ネジボルトにスライディング／サイドブラケット、いずれかを左右合計4本のボルトを使い固定します。
 2. ECやEB、SELなど大型スクリーンの設置方法については別途お問合せください。



③ボックス内

ボックスを利用し、天井内にきれいに収めたり、カーテンボックスやボタンと同じボックス内に収めることにより、見た目にきれいな室内空間になります。

アルミボックス (AL) : 天井面にスクリーンを隠したい場合などには、オプションのALできれいな処理ができます。スラブアンカーに吊ボルトを取り付け、吊ボルトでALを固定した後、ALにスクリーンを取り付けます。



④たれ壁

原則的に壁付けと同じですが、たれ壁自体の強度の確認が必要です。また、スクリーンの向きにより、生地反転 (▶P.30) などの工夫が必要です。

⑤裏たれ壁

たれ壁と同様です。